

行政視察 山菅直己 議員

日時：令和4年7月28日(木)～7月30日(土)

場所：北海道函館市、北海道森町

区間	交通手段		鉄道賃		特急急行	飛行機	その他	計
			キロ	金額				
佐野駅～羽田空港第1・第2ターミナル駅	鉄道	往	111.7	1,560	1,050			2,610
羽田空港～函館空港	飛行機	往				23,470		23,470
函館空港～函館駅前	バス	往					450	450
函館駅前駅～市役所前駅	鉄道	往復	0.8	420				420
函館駅～森駅	鉄道	往復	99.0	2,260				2,260
函館駅前～函館空港	バス	復					450	450
函館空港～羽田空港	飛行機	復				22,470		22,470
羽田空港第1・第2ターミナル駅～佐野駅	鉄道	復	111.7	1,560	1,050			2,610
								0
								0
								0
計				5,800	2,100	45,940	900	54,740

宿泊料@16,500×2泊	33,000 円
交通費	54,740 円
(うち航空運賃)	45,940 円)
計	87,740 円

上記の金額は、佐野市職員等の旅費に関する条例及び佐野市職員等の旅費支給規則により算出した金額である。

議事課庶務係長 山野井 健

※金額や発行元などが、枠内に収まるよう、また重ならないように添付してください。

行政視察 山菅直己 議員

日時：令和5年2月6日(月)～2月8日(水)

場所：長崎県長崎市、長崎県大村市

区間	交通手段		鉄道賃		特急急行	飛行機	その他	計
			キロ	金額				
佐野駅～羽田空港第1・第2ターミナル駅	鉄道	往	111.7	1,560	1,250			2,810
羽田空港～長崎空港	飛行機	往				19,070		19,070
長崎空港～長崎駅前ターミナル	バス	往					1,000	1,000
長崎駅前ターミナル～試験場前	バス	往復					2,000	2,000
長崎駅前ターミナル～長崎空港	バス	復					1,000	1,000
長崎空港～羽田空港	飛行機	復				20,470		20,470
羽田空港第1・第2ターミナル駅～佐野駅	鉄道	復	111.7	1,560	1,050			2,610
								0
								0
								0
								0
計				3,120	2,300	39,540	4,000	48,960

宿泊料@16,500×2泊	33,000 円
交通費	48,960 円
(うち航空運賃)	39,540 円)
計	81,960 円

上記の金額は、佐野市職員等の旅費に関する条例及び佐野市職員等の旅費支給規則により算出した金額である。

議事課庶務係長 山野井 健

令和4年9月25日

佐野市議会議長 様

政友みらい 行政視察報告

議員名 山菅 直己

① 期日：令和4年7月28日(木)～7月30日(土)(2泊3日)

② 視察地及び視察事項

- (1)北海道函館市「函館市西部地区再整備事業」について(7月28日)
- (2)北海道森町「新エネルギーの導入」について(7月29日)

③ 参加議員

小暮博志、山菅直己、川嶋嘉一、慶野常夫、神宮寺秀樹、はぎ原政夫

④ 研修内容

(1)「函館市西部地区再整備事業」について

この整備事業の対象は、函館山山麓(東側)の12町(臨港地区を除く)330haが対象となっています。現在このエリアは、人口減少や高齢化により活力の低下や、空家・空地の増加などが問題となっており、将来にわたって持続可能な暮らしと風景を構築し、定住人口の回復と交流人口の底上げを図ることを目的として、令和元年7月に「函館市西部地区再整備事業基本方針」が策定されました。

この実施方針は、現在この地区内にある空家・空地を含めた低未利用の不動産等を民有地、公有地を含め重要な“既存ストック”と位置づけ、その活用策を検討・実施し、良好な住宅の供給や生活利便施設の導入、観光交流施設の拡充などを勧め活性化を促進する内容です。

・所感

函館市のこのエリアは、景観の素晴らしい観光地ではありますが、傾斜地や古い建物も多く、特に冬期は生活をするには色々な面で不便さを感じるような気がいたしました。今回、そのエリアの再整備事業とお聞きし、市内でも再開発が遅れていた場所でもありますので、非常に期待をしている所でございます。

(2)森町「新エネルギーの導入」について

森町ではエネルギー問題や地球温暖化問題に取り組むために、新エネルギーの導入を目指し、平成27年に「森町地域新エネルギービジョン」を策定し指針としています。新エネルギーとは、自然の力を利用したりする地球にやさしいエネルギーの事です。具体的には、中小水力発電、太陽光発電、風力発電、バイオマス発電、地熱発電です。森町内濁川内区の道内唯一の「森地熱発電所」の見学をさせていただき、そのシステムの説明を受けました。

・所感

森町の「新エネルギーの導入」につきましても、早くから地球温暖化問題に取り組まれており、太陽光発電やマイクロ水力発電の普及啓発等に携わる職員の皆様の熱意を感じることが出来ました。道内唯一の地熱発電所につきましても、そのシステムの説明を受け、自然の恵みであり、環境にやさしいエネルギーですが、調査や開発等に時間やコストの問題点もお聞きしました。

令和5年3月24日

佐野市議会議長 様

政友みらい 行政視察報告

議員名 山菅 直己

① 期日：令和5年2月6日(月)～2月8日(水)(2泊3日)

② 視察地及び視察事項

- (1)長崎県長崎市「長崎駅周辺再整備事業」について(2月6日)
- (2)長崎県大村市「消化ガス発電事業」について(2月7日)

③ 参加議員

小暮博志、山菅直己、川嶋嘉一、慶野常夫、神宮寺秀樹、はぎ原政夫、長浜成仁

④ 研修内容

(1)「長崎駅周辺再整備事業」について

完成したばかりの長崎市役所新庁舎の議会事務局を訪問し、この整備事業についての説明を受け、その後工事が進行中の現地に移動し、完成した駅舎や施設を視察し、今後進められる内容の概要について説明を受けました(約2時間)。この事業は、国が事業主体の「九州新幹線西九州ルート」と長崎県が事業主体の「JR長崎本線連続立体交差事業」、そして長崎市が事業主体の「長崎駅周辺土地区画整備事業」の3つの事業が相互に関連しながら進められていて、現在も進行中です。そのような中、令和4年9月23日に念願であった西九州新幹線(武雄温泉駅から長崎駅間の5駅)が開業し、長崎駅も長崎の陸の玄関口・長崎の顔として幕屋根の新しい駅舎が誕生いたしました。前年に完成した西口のコンベンションホール「出島メッセ長崎」を始めとして、令和5年には東口に新駅ビルやホテル等、そして令和7年には東口の交通・多目的広場等が完成し全体計画が完了予定となっているようです。

・所感

長崎市は令和4年9月23日の西九州新幹線の開業に伴い、長崎市駅周辺の再整備事業は国や県の事業と並行しながら、駅周辺を令和7年までに再整備する計画で、まさに新幹線の発着駅、長崎の顔として構築される計画となっていて、平地面積の少ない中で歴史ある街並みと、駅周辺の新しいデザインが融合し住民に受け入れられように思われました。九州新幹線に関しては、全線開通の見通しが立っていないことから、早期に問題を解決し、新しい顔の出来た長崎

市や周辺地域に沢山の人が集うことを希望したいと思います。

(2)大村市「消化ガス発電事業」について

大村市の大村浄水管理センターを訪問し約2時間弱の時間で、消化ガス発電事業に関する説明を受け、発電設備や下水処理の状況などを視察させていただきました。

平成24年の電気業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法が施行され、固定価格買取制度(FIT)を活用した売電による発電事業が可能となった事によりスタートしました。民設民営の方式を取り入れ、平成26年7月より発電を開始したということです。

下水処理現場で発生する消化ガスを電気業者に売却し発電事業を行うもので、下水道資源を有効活用し、化石燃料に依存しないエコロジーな発電でCO₂の削減に貢献する事業となりました。

・所感

大村市の下水処理をする過程で発生する消化ガスを利用した発電事業開始から、約2年遅れで佐野市においても同様の消化ガス発電事業が開始されました。今後の国の政策にもよりますが、今後は一定規模の下水処理場には、同様の発電設備の設置が増えることは必然的と思われます。人々の生活排水を利用した再生可能エネルギーですので、無限大ではありませんが、今後はより効率的で持続可能な施設管理、事業推進を心がけていただきたいと思います。